

「兵隊になりたい」子供たちの日常

戦時中の遊び・風俗事情

戦時中、軍景色が色濃く反映されたのは、子供の世界も例外ではない。子供たちは何をして遊び、どんなおやつを食べていたのか？ 庶民文化研究家の町田忍さんに聞いた。

庶民文化研究家
町田 忍

●まちだ・しのぶ 1950年東京都生まれ。庶民文化研究所所長。社団法人日本銭湯文化協会理事。『東京マニアック博物館 おもしろ珍ミュージアム案内』（メイツ出版）、『東京ディープぶら散歩』（アスペクト文庫）など、著作多数。

やっぱり兵隊さんごっこ

戦時中の遊びとひとことについて、お金持ちと貧しい家、都会と田舎では、遊び方がまったく違います。野山や川といった自然相手に遊ぶことのできない都会の子供たちは、当時、あちこちにあった原っぱこそ遊び場だったでしょう。男の子だっ

たら竹馬やコマ、凧あげ、虫捕り、相撲なんかをして遊んでいたんじゃないかと思えます。

ちなみに、このころのコマは木製です。釣り鐘や二宮金次郎の銅像、家庭からも鍋釜が供出され、郵便ポストも陶器に変わったという時代ですから、武器生産に欠かせない鉄を使ったコマを作るなんてことは、ま

らあったけど、それも供出されたんじゃないかな。
ほかには、鬼ごっこをして町中を駆け回ったり、下町なら路地で遊んだでしょう。あとは、なんととっても兵隊さんごっこでしょうね。当時の子供は「将来何になりたい？」と聞くと、男の子なら「兵隊さんになりたい」と答える時代でしたから。

男の子が兵隊に憧れるのは、教育がなせるワザという部分も大きかった。軍国主義まっしぐらで、子供にとっても戦争以外の情報がなかなか入ってこないから、兵隊に憧れたり、兵隊ごっこで遊んだりするようになるのも、当然といえば当然ですよ。

七五三の衣装も、ちよつとお金がある家では軍服です。軍服姿の男の子が明治神宮にお参りに行く写真も残っています。一着ずつ、ちゃんと仕立てるんですよ。大将を模したやつなんて、徽章もたくさんついてるし、子供が着ると大将のミニチュア版といった感じです。

僕がたまに着ている戦車や軍艦がプリントされたシャツは、昔の着物を仕立て直したもので、あれなんかもとは戦時中の男の子が着ていた七五三の晴れ着です。

七五三には女の子もきれいな晴れ

着を着ますけど、当時の女の子の遊びといえば、ままごとやお手玉。お手玉は手作りですね。男の子も、三八歩兵銃や飛行機を木で作っていたりしていた。そうでもしないと、遊ぶ道具なんてなかなか手に入らなかつたんでしょうね。

ただ、お金持ちの家だと、雑誌の付録なんかで遊ぶことがあった。紙でできた組み立て付録ができあがると、近所の子供たちが完成品を見に集まったといいます。これも爆撃機や戦艦ばかりで、戦局がかなり悪化するまでは、けっこう作られていたようです。

遊び方が変わったのは……

僕も子供のころは、遊ぶものは、けっこう自分で作りしました。ゴムを動力にした糸巻き戦車なんて、

明治や大正のころからあったんじゃないかって気がしますが、戦時中も、身の回りにあるものを使ったおもちゃは多かつたはずですよ。

近所の原っぱやお寺の境内でも、よく遊びました。「水雷艦長」って知ってますか？ じゃんけんみたいな三すくみを利用した人間版の軍人将棋といった遊びで、二組に分かれて、チームで戦うんです。水雷艦長や鬼ごっこみたいに、道具がいらなくて、かつ子供同士が集ってやる遊びも、昔からけっこうありました。

戦前は、いと違って子供の数が多く、兄弟姉妹も多かつたので、いろんな遊びを一緒にやれたし、実際やっていたんですよ。塾もないから、子供たちがなんとなく集まってくる、「今日は何する？」みたいな流れになるのが当たり前で、そこでは年長の子たちから幼い子たちに、